

## 内発的と外発的をミックスさせたような“努力観”

2026・2・5 校長 重枝一郎

「努力は必ず報われる」という言葉をよく聞きます。この“努力”が結果に結び付くという信念は、結果期待と呼ばれます。ところが、なかなか結果が出ないことは多々あります。そうなると、人はこの“努力”に対して様々な思いをもちます。例えば、「それでも努力を続けることが必ず結果に結び付く」とか、「努力だけはどうしようもない自分の才能が影響する」とか、「結果とは無関係に努力自体に意味がある」とか、「努力は報われるかは問わずに好きだからしている」とか・・・。

「楽しいから努力する」という言葉は、教育の世界では「内発的動機付け」と言われます。私たちの授業においても、学習課題を直感的に楽しいものにする工夫を入れることはよく行われます。そして、それをきっかけとしてみなさんの自ら学ぶ意欲が高まるようになればいいと思うこともあります。でも、自らで楽しめるようなマインドを持たないと、やはりそれは自律的ではなく他律的ということになります。

また、“努力”を持続させていくには、「怒られるから」「友だちに負けたくない」「合格するため」「お小遣いをもらう」など「外発的動機付け」が影響することがあるのも否定できません。

そこで、内発的と外発的をミックスさせたような“努力観”として、「他人のために努力する」ということがあります。例えば、プロ野球選手のゴールデンスピリット賞というのを聞いたことがあります。これは、プロ野球選手が自分の成績に応じて寄付活動をしているというものです(ピッチャーの奪三振の数に応じて子どもにランドセルを寄付する、ホームランの数でワクチンを寄付するなど)。つまり、自分の努力に社会的価値を付与することで、「自分が努力すれば、他者を幸せにできる」という考え方で、努力を持続させていく方法です。

すいぶん昔の話になりますが、私は教師になる前に、当たり前ですが、教育実習にいました。本校にも卒業生の教職志望の学生が教育実習に来ます。

私は、小学校5週間、中学校2週間の実習を体験しました。小学校での実習は、そのつらさから途中でいなくなる実習生もいました。私のグループも一人突然いなくなつて、「今日のその人の授業をどうする?」となつたのをおぼえています。突然なので、その人の理科の授業を私が引き受けました(ちなみに私は数学)。その時の私は、なぜかいつもよりもやる気がわいていました。おそらく、ピンチであること、他人のために努力する感覚が、やる気の源になっていたと思います。いつも以上に努力できた自分がいました。そして仲間の実習生から「ありがとう」と言われたのをおぼえています。

中学校での実習は、相変わらず母校のサッカー部は学校の荒れの原因のような存在で、先生たちに多大なる迷惑をかけていました。ところが、実習生ですが、サッカー部の先輩の「重枝さん」ということで、日頃、教科書も開かない生徒が、ノートをとっています(笑)。他の授業もきちんと受けるようにサッカー部の後輩たちに話しました。たぶん義理と人情の世界と思うのですが、後輩たちは少し変化し、私は他の先生から感謝されました。どちらも、他者から良い反応をもらったことが、教員になろうと思ったきっかけかもしれません。

このように他者に関連した要因、例えば、「他者から評価されたり承認されたりすること」「他者から受ける支援や期待」「共に努力する仲間の存在」「他者との良好な関係」「他者の役に立っている行為」。つまり、他者や世の中のためになるという努力を、できれば楽しんでやるという“努力観”が、私が生徒のみなさんに求めている“努力”なのです。

お祈りをします

主なる神様

いつも生徒たちを守っていただいていることに感謝します。

この3学期は、次の学年の「O学期」として、生徒たちは準備をしています。

生徒一人一人が「自分が努力すれば、まわりを幸せにできる」という気持ちになるために、励ましてください。

そのために、常にそばにいて、勇気をお与えください

この願いを主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします

アーメン